

令和4年度 文京区立千駄木小学校授業改善推進プラン

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果		令和4年度「全国学力・学習状況調査」の分析
成果	○国語・算数・理科「授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は、国語も算数も理科も約90%であった。同様に、「国語・算数・理科の勉強は大切だと思いますか。」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる。」と答えた児童は国語・算数は90%を超えており、理科は85%だった。	国語の結果からは、知識及び技能、思考力・判断力・表現力については、高い結果となった。国語「読むこと」の指導の充実を図り、対話を取り入れた授業を展開してきた成果であると言える。算数も同様に高い結果を得ており、「もっと簡単に解く方法を考える」「公式や決まりと使うとき、そのわけも考えている」と回答している児童が多いことから、算数においても対話を取り入れた授業を展開しようとする成果が出ていると言える。理科についても、すべての正答率が東京都や全国を上回っている。
	○「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は、80%を超えている。	今までの授業改善推進プランの重点は、対話を取り入れた授業を、各教科において実現できることを目指して設定してきた。このことから、「各教科において自分の考えをまとめる」ことができていると意識できていたと言える。今後も、まずは自分の考えをもち、友達との対話を基に、よりよい考えをまとめられるよう指導の充実を図る。
	○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」(学校の授業の予習や復習を含む)に85%の児童が「よくしている」「ときどきしている」と答えている。	家庭学習の習慣が定着している児童が多い。さらに定着率を上げ、児童自身で時間を管理していけるよう学校でも指導を行う。一人一台タブレットの環境を活用した学習活動を充実させ、家庭学習につなげることで自学自習の態度を養っていききたい。
	○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」に「当てはまる」74%、「どちらかといえば当てはまる」23%が回答している。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に「当てはまる」47%、「どちらかといえば当てはまる」34%が回答している。	日常の学校生活の中でも、互いの考えを聞き合い、共に解決策を考え、一緒に協力して解決していこうとしている姿がうかがえる。児童自身が、対話を大切にしていることが分かる。
	○「自分には、よいところがあると思いますか。」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は約82%、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童は約89%である。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。」においても、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が81%である。	自分でやると決めたことを、最後まで、やり遂げようとしている様子や難しくても、努力して挑戦していることが分かる。他の質問でも、困りごとや不安を相談できるとしている児童が70%を超えており、身近な人に相談しながら、解決につなげようとしていることが分かる。こうしたことを通して、自分のよさも自覚できるようになっていると考えられる。
	○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は84%である。学習にタブレット等を活用していると回答している児童も多い。	学習活動でタブレット等を活用することが身に付いてきている。また、使用についての約束を守っていると思っている児童が多いことから、家庭でのタブレット使用についても、児童が意識していることがうかがえる。今後、より一層タブレットの活用が広がるだろうと思われるが、約束を守って安全に使用するよう学校と家庭で協力して進めていきたい。
課題	△「朝食を毎日食べていますか。」に「している。」は約82%、「毎日、同じくらいの時間に寝ていますか。」に「している。」は約37%、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」は「している。」は約54%である。この3項目の回答率は、東京都、全国と比べるとやや下がっている。	生活リズムが整うと、学力も向上するというデータがあった。生活リズムが安定することにより、学習へも落ち着いて向き合うことができる。通常の学校生活時程に戻ったこの機会に、改めて児童自身が自分の生活リズムを整えていく必要があることを意識できるよう指導を工夫していく。
	△「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は76%である。	学校生活は学習だけではないが、各教科の学習においては、教科の特性を生かし児童の知的好奇心を揺さぶる課題の設定や提示を行い、児童の興味・関心を引き、意欲的に学習に取り組める授業を展開していく必要がある。さらに、生活面でも改めて学校が楽しくないと思う原因について分析し、改善に努めたい。

以上のことから、今年度の授業改善推進プランの重点は

- 課題意識をもたせ、学習意欲を高めさせる導入の工夫
- 対話を取り入れた授業の工夫(学び合い)
- 次時への意欲をもたせる、振り返り・まとめの工夫

令和4年度授業改善推進プラン(各教科)

文京区立千駄木小学校

令和4年10月

	課題意識をもたせ、学習意欲を高めさせる導入の工夫	対話を取り入れた授業の工夫(学び合い)	次時への意欲をもたせる、振り返り・まとめの工夫
国語	○単元の最初に、学習感想や話し合いをもとに立てた学習活動計画を提示し、学習の見通しをもたせる。	○自分の考えをペア、グループ、全体で話し合わせることで、違いにや多様な考えがあることに気付かせ、共有させることで、学び合いのよさを実感できるようにする。	○めあてに対する振り返りを行うことで、今日学んだことや次に取り組みたいことを自分の言葉でまとめさせ、次時の学習に生かすことができるようにする。
社会	○写真や資料、体験的な学習から気付きや予想を立てさせることにより、学習の方向付けを行う。	○調べたことをもとに分かったことを話し合い、社会事象の意味やその事象に携わる人々の思い・願い等を全体で共有するという学習を設定し、社会に対する関心を高めさせる。	○本時のめあてに対して、調べて分かったことや学んだことを、自分の言葉でまとめる活動を設定する。また、友達とのまとめ方を学び、自分のまとめに必要な言葉などを取り入れる。
算数	○前時を振り返ったり、本時の問題場面を解釈したり(分かっていることは何か、分からないものや求めるものは何か等)することを通して、児童自らが本時の学習のめあてを見い出せるようにする。	○図、表、グラフ、式、キーワードなどを使って自分の考えを表現させ、ペアやグループ、全体の話し合いを、学習内容や習熟に応じた方法で行う。 ○児童のよいつぶやきや発言を広め、話し合いを深めさせる。	○学習感想に、本時で分かったこととともに、新たな発見や問い、疑問などを書かせ、クラスで交流する。
理科	○既習内容で説明ができそうでできない自然現象に意図的に出会わせて、児童が解決したくなるような問題を提示する。	○問題に対する見方や考え方を明確に示した後に、予想や仮説を立て、話し合いでは「自分の考えをより妥当なものにする」ことをねらいにして話し合わせる。	○学習前と学習後での問題に対する自分の考えを比べさせることで、学習を通して自然界の決まりや法則を知ったことを実感させ、次時の学習への意欲を高めさせる。
生活	○児童が興味をもてる身近な人やものを教員が学習材として選定し、出会わせ方を工夫する。	○体験活動を取り入れ、調べたことや経験したことを伝え合う活動を通して、新たな気付きを共有し、学び合いの楽しさを実感できるようにする。	○毎時間、めあてに対する振り返りの時間を設け、よい気付きや深めたい考えをもっている児童の感想を共有する。
道徳	○児童の生活経験を尋ねたり、価値項目について考えたりして、短時間で即答できる発問やアンケートなど、資料への興味付けを図る工夫を行う。	○題材や体験などから考えたこと、感じたことを話し合うことにより、異なる考えに接することができるようにする。	○学習したことを振り返り、資料を通して考えたことや話し合ったことなどをワークシートに記入し発表することで、改めて自分の考えを考え直す機会を設ける。
音楽	○児童が新しい曲を学習する際、既習曲との共通事項を意識させたり、CDやDVDなどの資料によって、興味・関心を高めたりするなどの工夫をする。	○音楽鑑賞や表現活動を行う過程で、互いに気付いたことや感じ取ったことを言語化して交流したり、共有したり、共感し合ったりする場面を設ける。	○本時の授業で、技術的に習得したことや、それを生かして表現したいことなどを自分の言葉でワークシートにまとめ、発表することで皆で共有させる。
図工	○児童のつぶやきや発言を拾いながら学習活動へと導き、活動内容を掲示して制作過程を視覚化することで、見通しや作品に対する想いをもって活動に取り組めるようにする。	○活動中に作品を見合う場面を設け、互いに感じたことや考えたことを交流させ、作品のよさに気付かせる。	○ワークシートに、自分や友達の「いいなと思える活動」や「工夫して表現したところ」を中心に学習感想を書かせ、自他の変容に気付かせる。
家庭	○単元の初めにはオリエンテーションを行い、単元の目標やゴールを示し、見通しがもてるようにする。また、毎時間、安全面や活動の流れを示し、児童が安心して活動に取り組めるようにする。	○グループで調理や裁縫、清掃など学習に必要なことや方法を調べ、計画・実践・振り返りをする中で、友達と交流しながら課題をやりとげる体験をさせ、協力・協働のよさに気付かせる。	○毎時間、ワークシートでめあてに対する振り返りを行い、年間を通してためていき、できるようになったことを実感できるようにする。また、家庭で取り組みたいことなどを書かせ、家庭実践への意欲につなげる。
体育	○単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮について指導し、見通しをもたせる。また、児童一人一人がめあてをもって取り組めるようにする。	○ペアやグループで互いに動きを見合い、様子を伝えたりアドバイスしたりすることができるようにする。	○めあてに沿った振り返り・自己評価をさせ、次の学習のめあてや意欲へつなげられるよう指導する。
外国語	○単元の最初に、ゴール(めあて)を示すことで、学習の見通しをもたせる。	○ALTの話や、映像を通して世界の友達の生活や暮らし、考えを知る機会を設ける。また、自分の考えを英語で述べることで、多様な文化・考え方があることに気付かせる。	○本時で学んだこと、新しい気付きを振り返り、次の学習のめあてや意欲へとつなげていく。